



子どもとメディア 北海道

# 子どもとメディア 北海道

第34号  
2018年  
10月発行  
今期第2号

子どもとメディアインストラクター養成講座修了しました!【9月1・2・23・24日】

**全道各地に養成講座修了者が、16人も誕生! これからの活躍に期待です!**

今回の開催に当たって、現地で会場の予約や当日の準備後片付けなど、大活躍だったのが、**札幌在住 mothers space ミーナ代表の菊地三奈さん**です。講座終了後にこの講座への思いや4日間の内容をご自身のブログで、熱く&わかりやすくまとめられていたので、情報誌に掲載させていただきます。

「NPO 子どもとメディア」は九州にあります。子どもたちが幼児だった時からずっと受講したかった「子どもとメディアインストラクター養成講座」。8時間×4日間九州に行くのはむずかしかったり、開講していない時期があったりして、なかなか手が届きませんでした。

北海道では旭川の小児科医、諏訪先生と白老の子育て支援 NPO 代表中谷さんのおふたりが九州へ行って受講され、長年「子どもとメディア北海道」として活動を続けられています。北海道や道内市町村で時折 NPO 子どもとメディアの古野さんがいらっしゃることがあり、私はそのタイミングで子育て中の母親対象に子どもとメディアの講座を主催させていただきました。

ようやく実現した北海道での「子どもとメディアインストラクター養成講座」開催。何年もかかったけれど、学んでみたら今がベストタイミングだったと思えました。そして、これ以上遅いわけにもいかなかった。子どもたちの現状はかなり深刻です。

今回は9/1・2、9/23・24の4日間、朝から夕方までみっちり子どもの発達、メディアが子どもに及ぼす身体的・精神的影響、子どもが置かれているメディア社会の現状を多方面から学んでいきました。

グループワークもたくさんやりました。「子ども」はどこからどこまでの範囲かという、新生児・幼児・小学生・中学生・高校生まで。

「メディア」はどこからどこまでかという、紙媒体のものではなく、スマホ・タブレット・テレビゲーム・携帯ゲームなど電子的なものを取り上げて考えます。

中心にいらっしゃる清川さんの講義は、知識と情熱と子どもへの愛情に圧倒されるものでした。長野県から来札されました。



最初の土日から次回の土日までの間に、北海道胆振東部地震が発生。厚真町をはじめとした胆振地方の仲間もおり、道内各地、札幌市内、それぞれに停電や断水を経験し、電気のない時間をそれぞれに過ごし、よりメディアについて深く考えることができました。そして、宿題がありました。資料を集め、パワーポイントにまとめ、発表できる状態にする、そして他の方が作った、愛着形成・生活習慣・遊び・メディア依存・性の問題など、様々な角度からの資料や発表を見る、これはとても勉強になりました。

3日目は普段の古野さんがされている講座を受講しました。スマホ社会の子どもたち。私が育った頃とはくらべものにならない程の情報量と、必要以上のつながり。今の大人が経験したことの無い環境の中で子どもたちはどういう日々を送っているのか、そこには想像以上の現実がありました。

実際に資料を作り、発表をして、実践に近づいていきます。毎回、幼児・小学校低学年・小学校高学年・中学生、と分かれて作業します。なぜなら子どもの年齢によって、メディアとの関わりの実情、必要な情報、理解できる言葉などが全然違うから。

子どもに直接語り掛ける場合、保護者に伝える場合、職員に講座する場合など、あらゆる角度から考えていきます。インプット・アウトプット・インプット・アウトプット、1日中学び続けました。

みんな本当に頑張りました。仕事をしながら、被災地にて様々な予定外に対応しながら。札幌からは私も含めて1/3。遠方から受講されている方が多かったです。これから全道各地で広まっていくのが楽しみです。

子どもとメディアの講座を主催していた側から、自分もお伝えできる側に1歩進むことができました。教えてもらう側から、仲間のひとりになることができました。

資格認定までにはもうひとハードルあるため、まだインストラクターを名乗ることはできません。年内には必ず！とはいえこれから自分の講座の中で必要な情報をどんどんお伝えすることはできます。

もともと私はメディアの時間を減らした後の「おもちゃ」「遊び」「アナログゲーム」に時間を割きたいので、講座の前半に年齢に合わせたメディアのお話を、後半に「その代わりにどんな時間の過ごし方がおすすめか」というスタンスでやっていきたいと思い描いていました。いくらいいおもちゃやいいカードゲームを紹介しても、現実を知らないと定着していかないと思ったのです。

幼稚園の先生、保育園の先生から、「入園の時ではもう遅い場合がある」と聞きます。知育ビデオやYouTubeの観すぎで入園してくると、いろいろな場面で発達が心配だというのです。それは、「そういうことがある」という理論上の話ではなく、もう現実です。

ディズニーランドでアトラクション待ちのベビーカーの子どもがずっとタブレットを見ていたり、空港でママに抱っこされている赤ちゃんが手に完全にスマホを持ってアンパンマンを見ていたり、ファミリーレストランで育児アプリを使って言うことを聞かせていたりする場面を、私も見たことがあります。メディアに頼った子育ては、後々自分が大変になります。楽しませるのも、してはいけないことを怖がらせて教えるのも画面の中では子どもは育ちません。どの場合も、子どもに直接話しかけたり、「人がたくさんいるところで大きな声を出したらだめだよ」と言えばいいだけのことです。

「どうしたらいいのか」そのスタートは早ければ早いほどいいと思います。どんな現状でも、「今」からメディアの時間を少しでも減らして子どもとの時間を作りましょう。

子育てが大変なのはよくわかります。男子ふたり、私も大変でした。でも幼児期・小学生時代にしっかり遊ばせて信頼関係を作ればその後は楽です。逆に子育ての手がかかる時期をメディアに頼っている中学生以降が大変です。いつからでも人には可能性はありますが、思春期以降の大変さは幼児期の大変さの想像を絶しています。子どもの将来に関わります。何気なく手渡しているスマホやゲームが、のちに自分や子どもに大きな影を落とします。

子どもが小さい時は大変なのは、ちゃんと子どもを見てる証拠です。子どもが自分を表現している証拠です。大変じゃないのは心配です。家での子ほど保育園で手がかかります。保育園で頑張る力のある子は家で安心して甘えます。家での子は、言うことを聞かない思春期になった時どうなると思いますか?もちろん、そもそも落ち着いてるタイプの子もいます。そういうことではなくて、「大人にとって都合のいい子」になっていないかな、ということです。

幼児期・小学生時代は、しかも可愛いです。「ママ」と、笑顔で疑いもなく、わかりやすく愛情を注いでくれるのは、私は小学校6年生までだと思っています。(思春期になると、こっちがかわいいと思っても、見るだけで嫌がられます)。

時期が来たら子どもを信じて手を離し、必要な時に必要なサポートをするには、子どもにも自分にも最初の数年間の愛情の交流が支えになってきます。子どもに暴言を吐かれても「きつとこの時期を過ぎればまた落ち着く」と信じられるのは、6年生までの愛情貯金があるからです。そして、子どもが成人した先輩ママたちが、「反抗するのは正常で順調だから大丈夫」と言ってくれるからです。子育ての先輩のアドバイスは安心できます。

仕事をしててもいいんです。ひとり遊びの時間も大切。だから一緒に遊ぶ時間が貴重。スマホに関わっている時間ももったいない。他のことは後からいくらでもできるけど、子どもがちっちゃかったあの時だけが、絶対に戻って来ません。

手でも、ハンカチでも、言葉でも、紙や鉛筆でも、近所の散歩でも、子どもは楽しく遊びます。お金なんてかかりません。立派な木のおもちゃもとっても素敵なのですが、何もなくてもいろいろに遊べます。1日5分でいいです。何も他のことをしないでその5分だけは子どものためだけに使ってみる。それだけでずいぶん違うのです。絵本を読むでも、ベビマでも、なんでもいいと思います。

遊び方なんて誰も教えてくれなかったですよ。スマホも、商業的に幼児向けがあるために「よかれ」と思って与えているママもいます。

だから、学びましょう。我が子を守るために。子どもの発達に電子メディアは不要です。子どもの眼・脳・身体・心は幼児期・小学生時代が一番大切です。(もちろん中高生にも発達に大切なことがたくさんありますが、自己判断もできるようになってきます。)成長期の過度なメディア接触は発達を阻害します。

ちなみにメディアの勉強をしたからといって我が家の子どもたちが模範的なわけではありません。困ってます。一緒に学び、一緒に考えていきたいと思っています。

まずは来週、次男の通う中学校にて、仲間のママたちに中学生のメディアの現状と対策についてお話して、メディア講座の一部分から小さくデビュー致します。

子どものメディア環境の現状と対策、発達時期に合った遊びを子どもに関わる大人が知ることは、絶対に子どもの環境をよくしていきます。最初は小さな影響だったとしても、きっとだんだん広がっていくと信じて、1歩目を踏み出す準備を進めていきたいと思っています!

~~~~~江別市〇〇中学校2年生の壁新聞より~~~~~

昨年に続き今年も7月に江別市の全ての中学校で情報モラル講演会をさせていただきました。それを聞いた生徒さんが「学祭の新聞でネット依存について取り上げたい!」と、電話取材をしてくれました。中学生としての自主的な取り組みを促す記事に関心しました。(中谷)

## 自分たちで守ろう ~ネット依存症増加中~

今、日本で中高生の依存症患者が約90万人いると話題になっている。「ネット依存症」。それは私たち中学生の生活と将来にどのような影響を与えているのか、私たちにできることは何かを考えてみた。

「ネット依存症」とは、ネットゲームやSNSにはまり、生活に支障が出ることだ。今年、全国の中高生の依存者は約90万人にもなった。中学生はこれをどう思っているのだろうか。学年でアンケートを実施したところ、自分が依存していると思う人は3割いた。そのうちの5割が学校生活に影響が出ていると答えた。また、ネット依存に対して「依存になるのは仕方ない」「自分が依存だと思っから直したい」という意見もあった。

そこで情報モラル教室で講演をしてくださったNPO法人子どもとメディア認定インストラクターの中谷通恵さんに取材した。「依存症」の基準は、例えば「ゲームをやめられなくなり、朝、起きられなくなる」「ゲームをしないとイライラしたり、暴力をふるったり、ネットが原因で規則正しい生活を送ることができなくなる」ことだ。使うのをやめられなくなるだけでなく、学校生活にも影響を与えてしまうのだ。

また、抜け出すには早くて1カ月程度かかる。自分で「このままだといけない」と思えば、早く抜け出せることが多いそうだ。しかし、入院や親など周りの人の力を借りなければならないこともあるようだ。

ネットの依存は、私たちの将来にも大きな影響を与えるかもしれない。社会では、相手の表情を見て、気持ちを読み取ることが大切だ。でも、相手を見ないで話してばかりいるとその力が低下してしまうかもしれない。

このような影響を防ぐため、私たちが取り組めることはあるのだろうか。

「親など、周りの人に言われてからではなく、自分たちで考えてみる方が良い」と中谷さんは話している。例えば、「仲の良いグループやクラスなどで、ラインの使い方などを軽く決める」というものだ。また、「依存による影響を自分たちで学ぶこと」も良いそうだ。一人でルールをつくるより、複数の人で決めた方が全員が意識できて、続けやすくなる。自分たちで考えて行動することが重要だ。

これからの私たちの中学校生活と将来を守るため、今一度ネット依存の影響について学び、責任感を持って行動していきたい。

## H30年8月から10月までの活動報告

| 月日     | テーマ・内容                                                         | 行事名・主催者等                                               | 担当 |
|--------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|----|
| 8月17日  | 全国児童青少年演劇協議会北海道ブロック勉強会(札幌エルプラザ)                                |                                                        | 中谷 |
| 8月19日  | 問題行動等の未然防止と対応を行うための学校、家庭、地域社会、関係機関等の実効性のある連携について               | 第20回上川北部PTA連合研究大会<br>美深大会、第20回上川北部PTA連合会母親研修会美深大会(美深)  | 諏訪 |
| 8月25日  | 電子メディアが子ども達に与える影響                                              | 北海道こども学会 第23回大会<br>(札幌国際大学)                            | 諏訪 |
| 9月 8日  | 日高青少年自然の家保護者向け茶話会(日高町)                                         |                                                        | 中谷 |
| 9月 14日 | 私たちの成長に情報機器が与える影響は何か                                           | 雨竜中学校<br>情報モラル教室                                       | 諏訪 |
| 9月 15日 | 子どもの心と体を育てるために大切なこと～スマホなどの電子メディアが子どもたちに与える影響～                  | 西部ブロックPTA連合会研究大会<br>子どもの学力・生活習慣改善研修会<br>(湧別町文化センターTOM) | 諏訪 |
| 9月 20日 | 白老町萩野小学校高学年 アウトメディア教室<br>登別市PTA連合会講演 (登別市市民会館)                 |                                                        | 中谷 |
| 9月25日  | 占冠村PTA連合会 (占冠中学校)                                              |                                                        | 中谷 |
| 9月28日  | 江別市対雁小学校PTA研修会                                                 |                                                        | 中谷 |
| 10月10日 | 黒松内町黒松内小学校就学児健診時の家庭教育講話                                        |                                                        | 中谷 |
| 10月12日 | ネット利用も含めた望ましい生活習慣の定着に向けて～今、子どものために何をすべきか～                      | 平成30年度 稚内市北区子育て講演会(稚内市)                                | 諏訪 |
| 10月19日 | 安平町就学児健診時                                                      | 追分地区                                                   | 中谷 |
| 24日    | 家庭教育講話                                                         | 早北地区                                                   |    |
| 10月24日 | 心の発達とその問題                                                      | 旭川NPOサポートセンター<br>子育て支援者養成講座                            | 諏訪 |
| 10月25日 | スマホなどの電子メディアが子どもたちの心身に与える影響について                                | 苫小牧明野中学校 「子育て研修会」                                      | 諏訪 |
| 10月27日 | 宗谷教育局社会教育委員研修会での講演 (中頓別)                                       |                                                        | 中谷 |
| 10月29日 | 別海町乳幼児親向け講演会(中央公民館)<br>根室教育局「家庭教育ナビゲーター養成講座」(別海町)              |                                                        | 中谷 |
| 10月30日 | 別海町乳幼児親向け講演会(東公民館)<br>羅臼小学校高学年向け授業(羅臼町)<br>羅臼町PTA連合研究大会講演(羅臼町) |                                                        | 中谷 |
| 10月31日 | 羅臼町子育て支援センター親向け講話                                              |                                                        | 中谷 |

★養成講座は終了しても、インストラクターの認定にはデモ学習会などが要件になっています。なので、10月中に10人の方、11月には5人の方が、デモ学習会などをするのです。中谷、そのデモチェックをするので余裕がなく、今回は内容の少ない情報誌となりすみません。菊地さんに感謝です！！

★今回の養成講座後に、「子どもとメディア北海道」の会員が11人増えて、現在23人です。これからも、みなさんの力を借りて、情報誌なども充実させていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。